

国立大学法人宮城教育大学学長の業務執行状況の確認について

令和2年3月13日

国立大学法人宮城教育大学学長選考会議

国立大学法人宮城教育大学学長選考会議は、村松隆学長の業務執行状況につき確認を行なった結果、以下の結論に達した。

記

令和元年度の村松隆学長の業務執行状況は適正であると認められる。

【主な所見】

- ・令和元年度は第3期中期計画の4年目であるとともに、村松学長の就任2年目にあたる。中期目標および中期計画等にもとづき実施される教育・研究及び社会貢献等の業務全般について特段の支障はなく、「学び続ける教員(イノベーター・ティーチャー)の養成と支援におけるナショナルモデルとなる大学を目指す」との目標のもと、着実に大学改革を進めてきた点は評価できる。また、学長のリーダーシップのもと、大学施設の効果的活用を意図した施設マネジメント推進経費の策定、教員養成大学ならではの研究活動を支援する学内公募型研究費の創設など、学長裁量経費の効果的な活用がなされ、学内の各部署や附属機関、また附属学校との連携の道筋が整えられつつある点も評価できる。
- ・教員キャリア研究機構・防災教育研修機構等の附属機関については、いまだ大学との一体感が乏しく、学長のリーダーシップを支えるべく学部・大学院教育、現職研修への寄与、外部機関との連携などについて全体として統制のとれた運営が望まれる。教職大学院についても、新たなスタートにあたり、盤石の体制で運営に臨み、現職教員に新たな学びの機会を提供する一方で、学部生にとっても魅力ある学び舎とすべく充実した教育内容・指導体制を構築していただきたい。
- ・附属学校園の改革は喫緊の課題であり、地域のリーダー校として機能強化を図る一方で、働き方改革も推進しつつ教員養成大学の附属学校としての存在意義を示すべく特色ある学校運営に努めていただきたい。